

個別事業(取組)評価				
事業No,	28	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	青少年教育施設振興事業費 ※青少年センター、幡多青少年の家主催事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	4,226
			補正後予算額(千円)	4,191
			決算額(千円)	3,379

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <p>自主性や社会性、協調性に欠ける児童が増加し、不登校やいじめ等の課題が顕著となっている。</p> <p>【平成22年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ認知件数は全国ワースト21位 不登校生徒・児童数は全国ワースト4位 	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>各学校への聞き取りやアンケート等により課題解決のニーズを把握していた。</p>
		<p>【要因】</p> <p>自然体験活動や人との関わりが少なく、年齢に応じた社会適応能力が育成されにくい。</p> <p>また、そうした能力を育成するための家庭・学校・地域の連携や支援が不十分な面がある。</p> <p>【青少年の体験活動等と自立に関する実態調査】(国立青少年教育振興機構平成21年度調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然体験活動をしたことがある小中学生は約10年前より減少 自然体験、生活体験が豊富なほど道徳心・正義感が強い 	<p>イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>学校現場と連携した事業を実施するための利用団体に対するアンケート調査(小中学校教員や児童・生徒)を実施し、その結果の分析や合宿実施校との情報交換等により特定していた。</p>
②	目標(Outcome)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中1学級づくり合宿参加者の研修満足度を向上させる。 【目標数値】 ・研修実施後の本人アンケート平均90%以上(H22:89.4%) ・引率教員に対する2ヵ月後のアンケート「学級経営への効果あり」の回答95%以上(H22:95%) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 同一中学校生となる小学校の合同宿泊訓練の実施や中1学級づくり参加校の拡大を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用団体の目的に合わせた効果的な事業が行えるように新たなプログラムの開発、既存プログラムの見直しを行う。 【目標数値】 プログラムの新規開発及び見直し 3プログラム/施設 <p>【検証(比較)方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 宿泊訓練実施後の引率教員・生徒に対するアンケート調査及び宿泊訓練2ヶ月後の引率教員を対象にしたアンケート調査 ◆ 利用団体へのヒアリング結果(随時) 	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>参加者数や満足度合い、プログラム数など数値で示せる具体的な目標を設定していた。</p> <p>エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 引率教員の99%が「学級経営に効果あり」と回答している。また、生徒へのアンケートでも「楽しかった」「友達関係で効果があった」「児童間及び先生との相互理解が深まった」といった回答が90%を超えている。 ◆ (青少年センター) 中一学級づくり合宿は昨年度より2校増の13校が実施した。 ①スタツ、②フィールドビンゴフォト探検、③シーカヤック体験といった新しいプログラムを導入した。 (幡多青少年の家) 中一学級づくり合宿の参加校は昨年度より3校増の22校が実施し、高い頻度での利用が継続されている。 ①ウォークラリー②ハイキングウォーキング(滝編)③四万十川シーカヤックといった新しいプログラムを導入した。
		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 目的に応じた効果的なプログラムの策定及び実践を図るため、研修実施前の事前打ち合わせを十分に行う。(事前打ち合わせ2時間以上) ◆ 校長会への出席や学校訪問を通じて、事業実施成果の説明を行うとともに参加の働きかけを行う。 ◆ 主催事業の積極的なPRと計画的な実施を行う。 ・青少年センター 18事業 ・幡多青少年の家 9事業 	<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 各学校とも前年度末から学校や施設で2時間以上の綿密な打ち合わせを行った。 ◆ 利用実績のある学校を所管する各市町村教育委員会及び校長会に対して、合宿の成果を報告するとともに、未実施校への働きかけを行った。(校長会では主催事業のPRも併せて実施) ◆ (青少年センター) ・当初計画の18事業に新たに2事業(まんが教室)を追加し、計画通りに実施した。 ・平成24年度に中一学級づくり合宿を実施予定である中学校区の小学校を対象に合同研修を行った。(11月) (幡多青少年の家) ・当初計画の9事業のうち全ての事業を計画通り実施した。 ・同一中学校校区の小学校を対象に合同研修を行った。(6・8月)
③	実施内容(Input・Output)		

総合評価と今後の方向	目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	<p>【今後の方向】</p> <p>アンケートや実施内容を分析すると、中一合宿を行うことは学級づくりに有効なので来年度以降も学校と事前の打ち合わせを綿密にしなから、引き続き実施していく。</p>
	<p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 宿泊研修前後の協議・アンケートを通じて、学校と密接に連携した取組ができた。 ◆ アンケートでは、「中1時の学級経営に効果がある」など、教員、生徒から高い評価を得ることができた。 	